

輸出事業計画

※申請者名：和歌山県農業協同組合連合会

品目：もも

1. 輸出における現状と課題

【現状】

和歌山県のももは全国でも有数の産地で、生産量は西日本一を誇っているが、平成30年の台風被害を受け、生産量が大きく減少している。現在も、復旧をすすめているが、生産基盤が被害前の状況には戻っていない。

輸出は、農家所得の向上と地域農業の維持・発展のため、販路拡大につながる重要な手段として取組み、台湾を中心に東南アジア地域への出荷をしている。

輸出拡大の取組みとして、輸出先国の検疫条件をクリアするため生産園地において病害虫防除対策を行うとともに、選果こん包施設の体制整備に努めた。また、輸出先国のバイヤー招聘やWebでの商談会に加え、現地量販店での販売促進活動の実施を行ってきた。こうした中、輸出先国のニーズに基づき、桃では贈答向けの大玉果中心とした出荷に取り組んでいる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産面】

優良品種への改植や基盤整備による生産性の向上等により、生産基盤の維持強化を図る。

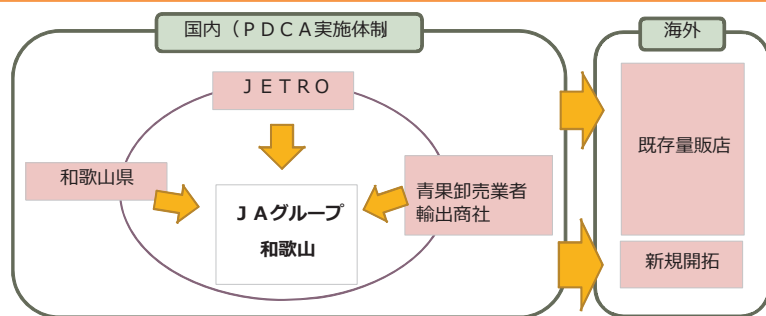
輸出先国の規制や販売先のニーズに対応するため、和歌山県版GAPや選果場でのHACCPの考え方を取り入れた衛生管理を推進する。

【販売面】

バイヤー招聘や量販店における販売促進活動によるPRを継続しつつ、SNS等を活用した産地状況等の情報発信や、ライブコマース等の新たなツールを活用したPRを展開していく。

幅広い等階級の販売企画、店舗拡大を図るため、関係機関と連携し、バイヤー招聘やWeb商談を活用し、現地バイヤー等との関係の更なる強化を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



組織	役割
JAグループ和歌山	生産基盤の維持強化
	輸送技術の検討
	情報発信、PR強化
JETRO 和歌山県	助言
	政策支援
	調査研究支援
青果卸売業者 輸出商社	市場状況
	現地ニーズの確認
	販売量増の協力
	販売先の確保

※各組織が連携し、PDCAサイクルを通じて、グローバル産地形成を推進し、輸出を拡大

4. 輸出目標額

品目	現状（令和2年度）		目標（令和7年度）	
	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量
もも	188.6百万円	157 t	343.4百万円	274 t
	台湾、香港他		台湾、香港他	